

今日のみ言葉 229 「主は、今よりとこしえまでも守られる。」
2013. 7. 10

主は、すべてのわざわいから、あなたを守り、あなたのいのちを守られる。

主は、あなたを、行くにも帰るにも、今よりとこしえまでも守られる。

(詩篇 121の7-8:)

The LORD keeps you from all harm and watches over your life.

The LORD keeps watch over you as you come and go, both now and forever.

ここに、いまから、数千年も昔から現代に至るまで、続いている神の守りへの確信がある。

私たちは、守られることを誰でも願っている。この世には、生まれたときから、さまざまの危険があり、誘惑があり、また困難に出会う。私たちの不注意や心の弱さ、罪ゆえに陥る苦しみもあるが、突然の事故、災害等、なぜ自分だけがこのような目に…とその不可解さに苦しめられることも多くある。

そうしたあらゆるこの世の災いから守られている—そうした確信がこの詩にはある。それは周囲を観察して分かることではない。これは啓示であり、このようにこの詩の作者は神より示されたのである。

どんなに守られていないように見えるときでも、天よりの声が、それでもあなたは守られている…と語りかけてくる経験を持ったのである。

神の信実と人間の神への信頼—それは私たちのほうが捨てないかぎり、いつまでも続く。この作者も、神の守りは一時的でなく、永遠に至るということを示されていた。

行くにも帰るにも—それは私たちの日々の日常生活から、大きな困難の日々、または異国や遠い場所へ赴くとき—あらゆるときに私たちはこの守りを与えられているということである。

住まいから出て、一日のさまざまの出来事を経て再び帰る—それはあらゆる人の日々の守りを意味している。入院とか寝たきりとなってじっさいには家や病院から出ることもできない人たちにも、心の旅路としてその一日のはじまりから夜やすむまでの守りをも含んでいる。

そしてすべての人に訪れる最終的な出発—この世から出て行くとき、そこにも神を信じる者には、大いなる守りがあり、死の力から守られ、神の国への霊的な旅路を経て、神のいます天の国へと導かれるのであり、この詩の作者の言うように、まさに永遠の守りが与えられているのである。



ツツジというと私たちは、公園や庭に植わっているサツキやヒラドツツジなどをすぐに連想し、さらにドウダンツツジや、ミツバツツジ、あるいはアセビやネジキなども思い浮かべる人もあるとおもいます。徳島県の高越山（こおつさん 標高1133m）には、国の天然記念物に指定されている、ほかに類のない見事なツツジ（ミツバツツジやオンツツジ）の大群落があります。1200本ほどもあり、高さの3～6m、樹齢300年という大きな木、古木もあります。

そのようなツツジに対して、この写真のエゾツツジは、樹木ですが、高さ10～30cmという草のようなツツジです。これは、東北の一部の高山（早池峰山・岩手山・秋田駒ヶ岳）と北海道の高山にしかみられないというもので、厳しい風雪にさらされるような過酷な環境にて育っている植物です。

この写真のものは、秋田駒ヶ岳の9合目ほどにあったもので、人の近づかないような急な山の斜面に咲いていたものです。このような弱々しく見える植物が、冬季の厳しい環境にあって生育しているのに驚かされます。

弱さの中に力を与えるという聖書の言葉を思いだしたものです。人間においても、神の力が与えられるとき、耐えがたいような厳しい状況にあってもそれを越えていくことができることを思います。

こうした高山の植物は、周囲の澄んだ大気、美しい山々や青空、そして時にはこの写真のように神秘的な霧もかかり、そうした中でいっそう私たちに強い印象を与えてくれるものとなっています。

そこに、神の国の命や力、そしてその美と多様性、さらにそこから私たちに語りかける天来の言葉を感じるのです。（文・写真ともT. YOSHIMURA）